

ジャニス・モンテス・パダグダグ研究員（フィリピン）



マブハイ！（フィリピンのこんにちは）

私はフィリピンより参りましたジャニス・モンテス・パダグダグと申します。ADRCの客員研究員として2019年1月8日から4月5日まで神戸に滞在しています。

私は、2012年にフィリピン政府で統計学者として働き始め、現在は、民間防衛官を任命され、民間防衛室（OCD）の企画課に所属しています。

災害リスク削減・管理法（共和国法第10121号）では、防災に関する政策立案、コーディネーション、監督、モニタリング、評価などの役割を国家災害調整評議会(NDRRMC)が担うことが定められており、NDRRMCの事務局をOCDが努めています。OCDのミッションは、包括的な民間防衛と災害リスクの軽減を目的とした戦略的かつ体系的なアプローチの継続的開発、プログラムを実施、被災後の対応など多岐に渡ります。

政策立案および計画においては、調査、計画、プログラムの作成、予算編成、プロジェクト開発、および市民防衛および災害リスク軽減ならびに気候変動適応プログラム、プロジェクトの立案など、信頼のおける効率的かつ効果的なサービスを提供することで、OCDの使命に貢献しております。

民間防衛官としての主な責務は、OCDの計画、行動、プログラム(PAP)の開発と、(1)災害への備え(2)災害予防・被害軽減、(3)災害の応急対応、(4)災害復旧・復興の4つの柱への資源配分になります。

私はまた、OCDの成果を毎年達成するための適切な予算の執行と定期的な実施という観点から、これらのPAPの管理と評価も担当しており、OCDのGawad Kalasagプログラムを通して、災害リスク軽減、気候変動への適応の計画に関する様々なプログラム、防災関係者から提案されたイニシアティブを評価、検証しました。これらの検証は、地域レベルにおける災害リスク軽減、気候変動への適応のための活動の検証、見直し、推し進めていくための判断材料となります。私はOCDで勤務していた過去6年間に渡って、DRRMの計画と方針の策定と見直しを促進してきました。

今回、日本で研究できる素晴らしい機会を頂いたことにつきまして、OCD、ADRC及び日本政府の皆様にご感謝申し上げます。このプログラムを通して、日本の災害に関連する専門知識や先進技術、優良事例やイニシアティブを学び共有することによって、フィリピンの持続的な発展に向けた防災対策の強化につながっていくことと確信しております。